

あとがき

「筋が通っていて面白いことであればまずやってみる。」「走りながら考える。」

当商店街でまちづくりや活性化を担当する「活性化委員会」の責任者を長年務める私の行動指針を一言で表したものです。初めて企画が挙げた時は、「こんな大変なことができるのか？」と正直思いました。編纂スタッフの一人が言うには、大学の頃からいつかは地域視点、現場視点から世の中を映し出した論集を出したいと思っていたそうです。そんな熱意あることを否定するつもりもありませんでしたし、商店街としても職業も年代もさまざまな人から新しい情報や接点を得ることは良いことだと思い、すぐに取り掛かることにしました。

私たちのような地域団体がレポートを集めて編纂するといった事例はあまりなかったようで、最初は募集に苦労しました。地元の新聞などに載せていただいたり、知り合いを通じてお願いをしてみたりと試行錯誤の連続でした。こうして動いているうちにレポートが集まりだし、それぞれの執筆者の想いに触れるたびに、「あの人の活動や想いを形にしたいい！」という新たな想いも心のどこかに生まれてくるようになりました。

市井の皆さんは、学者や有識者ではないので、活動や考え方は優れていても「執筆」というものに慣れていない場合もありました。そうした時は、編纂スタッフがインタビューに伺い、後日口述筆記をして、何度も何度も校正を繰り返しました。こうした積み重ねを続けて、長野県内のみならず他の都道府県からの応募もあり、総勢 16 名の皆様から商業、文化伝統、防災、経営、活性化、ブランディング、まちづくりなど多岐にわたるテーマ及び視点から執筆していただきました。

実のところを話すと、最初は 10 名に届かなくてもチャレンジしたことに意義を持たせようと考えていたこともありました。しかし、多くの皆様から力強いご協力をいただき、「論集」と呼んでも差し支えないものに仕上がったと思います。

昨年の新緑の季節から走りはじめ、今この新緑の季節に完走を迎えました。春夏秋冬、季節だけではなく多くのことが起きた 1 年間でした。こうして完走を終えた後も世の中は多くの新しい課題が生まれてきています。「地域の論点」は、もう「2021」に向けて走りをはじめようとしています。

この私たちのチャレンジは、「在野の知的財産の集積」を目的としたゴール無き、現場の皆で襷を繋ぐ駅伝です。最初の一步は誰も知らない小さな小さな一步ですが、いつか皆の熱い想いと汗がしみ込んだ襷とともに、走りつないだ足跡が将来を生きる多くの地球人の心の中に残ることを私たちは心から願っています。

最後になりますが、これまで執筆及び編纂作業に協力していただいた多くの皆様のご紹介はできませんが、ここに活性化委員会の責任者として深く御礼を申し上げます。

令和 2 年 5 月 吉日
南石堂町商店街振興組合
活性化委員長 小井土 文仁